

ロンサーフ®

(トリフルリジン・チピラシル塩酸塩、TAS102)

これまでの抗悪性腫瘍剤とは異なる作用機序を有する経口ヌクレオシド系抗悪性腫瘍剤です。ロンサーフ®では何らかの副作用が約9割の方に認められています。

1日2回、5日間連続経口投与したのち、2日間休薬します。これを2回繰り返したのち14日間休薬します。これを1コースとして投与を繰り返します。

【投与方法】



《服薬指導ポイント》

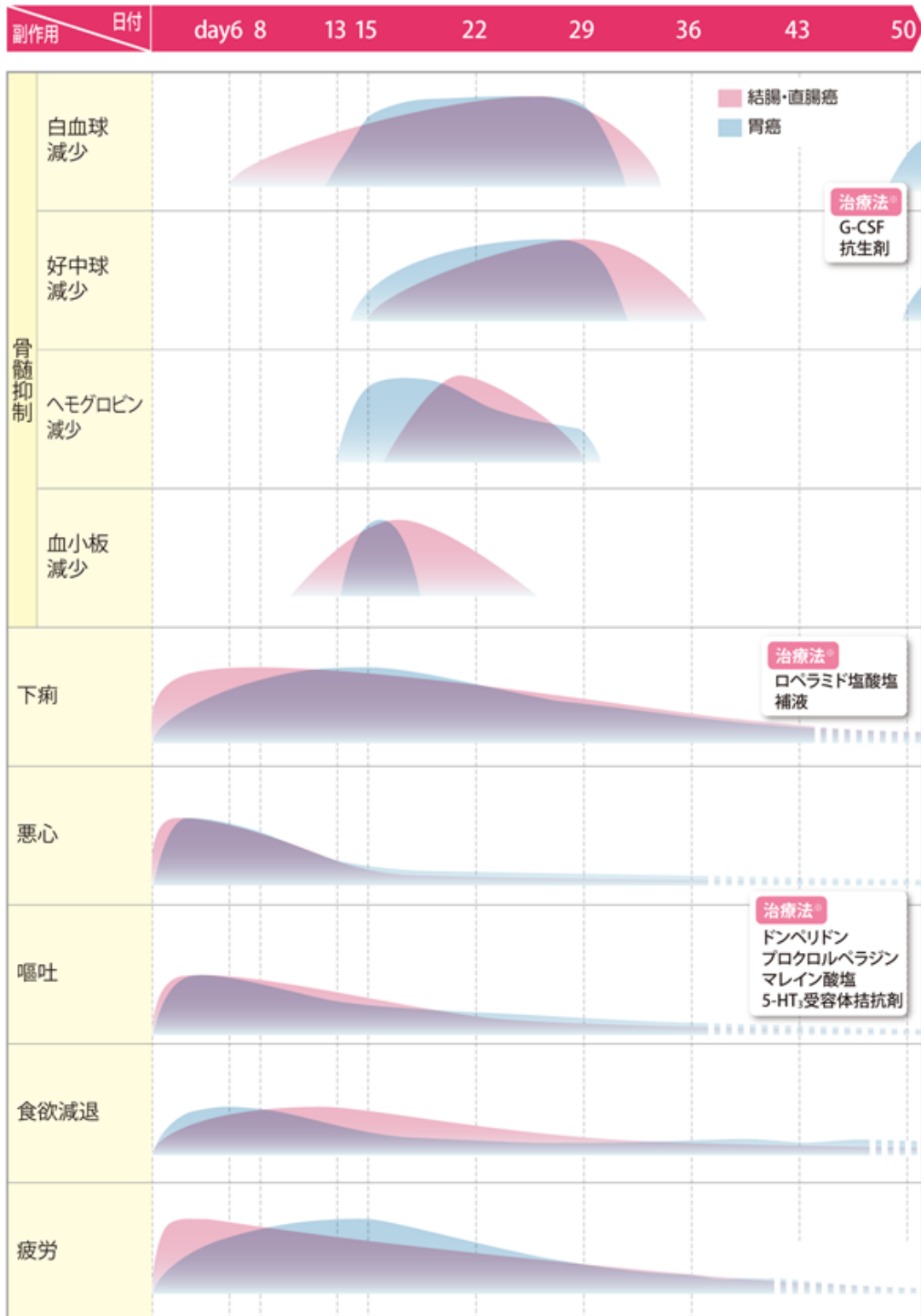
- 白血球・好中球減少…自覚症状はありません。易感染性となるため、手洗い、含嗽、歯磨きなどの感染予防について指導し、悪寒・発熱時の対処法を確認してください。
- ヘモグロビン減少…貧血症状を感じることがあります。無理をせず、休息をとることやバランスの良い食事を心掛けるよう指導を行ってください。
- 血小板減少…出血しやすく、出血が止まりにくくなります。けがや転倒には注意するよう説明してください。
- 下痢…脱水症状に注意し、水分補給を心がけるよう指導を行ってください。症状がひどい場合は止瀉薬の投与や輸液等の対症療法が必要となります。
- 悪心・嘔吐・食欲減退…悪心・嘔吐時は食べられるもの、好きなものを少しずつでも食べる、水分をとるようにするなど食事を工夫するように伝えてください。
- 疲労感…無理をせず、十分な休息をとるよう説明してください。

《注意すべき検査値》 好中球 $<500/\text{mm}^3$ 、血小板 $<5\text{万}/\text{mm}^3$ となった場合は減量

項目	投与開始・再開基準	項目	投与開始・再開基準
ヘモグロビン	8.0g/dL 以上	総ビリルビン	1.5mg/dL 以下
好中球数	1500/ mm^3 以上	AST、ALT	ULN×2.5 倍以下
血小板数	7.5万/ mm^3 以上	クレアチニン	1.5mg/dL 以下

大鵬薬品 ロンサーフ配合錠適正使用情報より抜粋

【主な副作用症状と好発時期】



※ご使用にあたっては各薬剤の添付文書をご参照ください。

抗がん剤 NAVI より引用

山口大学医学部附属病院薬剤部作成